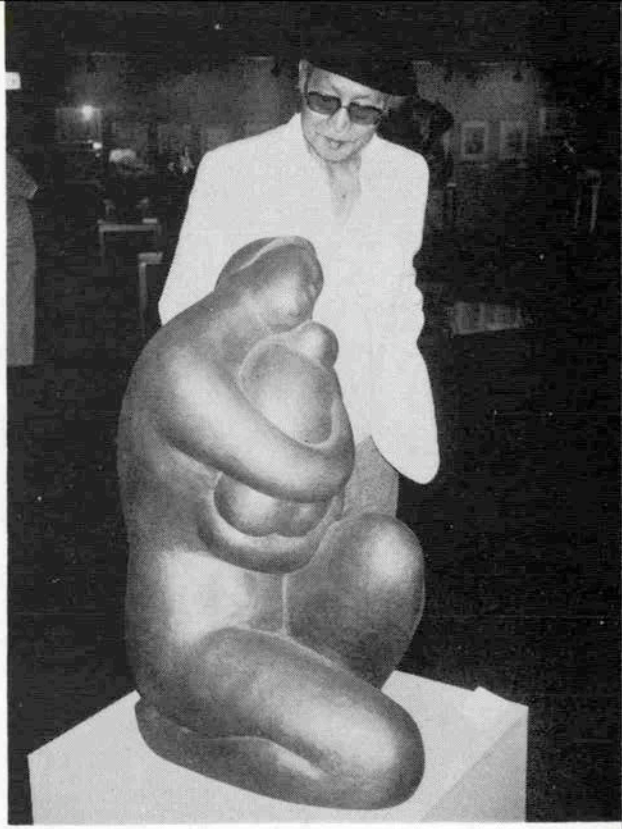


●珈琲飲みながら…

彫刻60年のあゆみ展から

「都市空間」の彫刻を拓いた

フロンティア 新谷英夫

八月十三日から十九日。ブロンズの交響〝新谷英夫彫刻60年のあゆみ展〟が、大阪・梅田・ナビオ美術館（ナビオ阪急三階）で開かれた。

会場には、中学時代（十三歳）の壁紙に描かれたデッサンの巻絵とか、文展初出品の〝立つ女〟（石膏・原型・一九四二）は、社町へ疎開した運搬時に、胸から上が壊われたという懐しい作品や、床面に展示された「ほおずり」（一九四九年・ブロンズ）の丸味を帯びた母子像など、新谷英夫の原点を知る作品が感動的だ。

ブロンズ、石膏、テラゾー、ポリエステル、セラミック、木など多彩な素材での造型作品や、レリーフ、デッサン、モニュメント作品の写真パネル・エスキースなど百余点を視ると〝愛の像〟や〝家族〟〝平和〟〝母子像〟など、心の底にある人間愛が、優しく激しく匂い立つ。

白い夏のニットセーターにスーツ。黒いベレーと、サングラス。若い笑顔の新谷さんは怪我をされて悪い足をステッキでかばいながら愛子夫人の肩に手をかけて写真に応じゆっくり・じっくりインタビューに応えてゆく。

――60年を迎えてのご感想は？

「金沢の生糸問屋の長男ですが、小学校の高学年から絵が好きで、今思うと五年生、六年生の二年間を受け持って下さった先生がえらかったですね。それは人間教育のために、壁紙を三十枚継いで巻物とし画用紙がわりにして、片手に朝顔や、チューリップ、メザシやかれい・カニなど花や魚を持って、毛筆で絵を描かされたのです。一つの物を十分も二十分も視めて、描きそこなわないように慎重に、物を粗末（そまつ）にしないで、ていねいに描くように教えられましたね。

それが、今日の会場にあるのは、危篤だった母親が枕元に僕を呼んで、自分のタンスの引出しをあけるように云われたが、中から、見憶えのある懐かしい巻物が出てきたのでした。母の目前でひろげて見た時には背筋がジーンとし、眼がしらが熱くなりましたね。僕の心の中の宝物です。

この絵がきっかけとなり先生の薦めで、金沢の郊外にある九谷焼へアルバイトへ行くことになり、絵付作業の

合い間にロクロを回したり、粘土をこねたり、土のぬくもりに親しむようになったのです。

そんな訳で、石川県立工業高校の窯業科の彫刻室を志願し、彫刻に興味を持つようになったのです。

中三の休暇を利用して東京の彫刻家吉田三郎先生（金沢出身）の門を叩いて勉強しました。それから父親に『東京美術学校の彫刻科を受験したい』といったら、『彫刻家なんぞは乞食も同然だ！　霞か泡を吸っているような人間に何が出来るか』と怒って猛反対。生糸問屋の跡とりだからムリもないのですが、父の友人が『好きこそものの上手なれというからやらせてみたらどうか』となだめてくれて『それなら、美術学校へ五番以内に入れたら許す』といわれた時には『ヨシッやろう』と思って、東京の武石弘三郎先生へ朝のうちに、昼から吉田三郎先生、夜は朝倉文夫先生の彫塑塾に通い猛勉強しました。

左より瑛紀氏夫人・パトリツィアさん、新谷英夫夫妻、瑛紀さんとお嬢さんの公規ちゃん

美校の入学の条件として五番以内ならと云うことでしたので、発表の時、五番目に名前があって、〝飛び上った〟とはあんな時のことをいうのでしょう。上野駅から家に「ジョウケンデニュウガクマルオクレ」と電報を打ったら、何と父が上京して来て、学生服と帽子を買ってくれて一緒に写真を撮そうといって記念写真を写真館へ撮しに行った（笑）気持の大きな一徹な父でしたが、それから三年目に五十三才で肺炎で亡くなりました。

――大黒柱が亡くなられて大変ですね。

「ええ、母親と姉、妹、弟三人で、生糸問屋は番頭と姉が結婚して継いでいたので、僕は止むを得ず東京美術学校を一時休校し生活の方便として、父の友人の経営している生糸貿易会社を頼って来神したのです。

ところが、当時母は腎臓が悪く、実家に居辛いので私の元で住みたいという。やっと楠町の県立病院の五六池の裏に平家を見付け、母を看護しながら一緒に住むことができた。

その一年前に、金沢工業学校の漆工科を卒業した次弟が、大阪鶴橋の蒔絵工場に就職したが、好きな道でもあり毎夜の残業が災いしてか肋膜を病い、母と住んでいる私の元に転がりこんできた。

二人の病人を抱えて生計に苦しんでいるのを見兼ねた病院の事務局から、印刷したばかりの薬袋の用紙を折りたたんで糊づけをする作業を大量に依頼され、病院の治療費と薬代に充てていた。

疲労困ぱいの折に、またしても三男の弟が金沢の商業学校を卒業し家業の生糸商を継ぐ筈だったのに、神戸を慕って来神し生糸商社に勤めたのでした。ところがテニスの選手だったのが急に運動を中止したとかで、またまた肋膜に罹り、親子三人が狭い六畳の室で枕を並らべ、隣りの四畳半で手内職をしながら介抱に明け暮れる仕末

でした。

病院の袋貼りだけでは到底医療費が足りなくなり、こんどは、襖の模様のプリント刷りの作業を毎夜遅くまで続けなければならなくなりました。

その後三年間は苦しみましたが、二年後に次弟が亡くなり、三年後に三男の弟も他界し、母は不治の長患いの身となりました。

全く死線を越えてやってきた苦難の道でしたし。」

――先生の作品には、家族とか、母情とか平和など、人間愛のテーマが多いのは、そんなご苦労があったからなんですね。本籍も全部、金沢から神戸に持ってこられ、神戸に転入されたのは何年ごろでしたか。

「一九三〇年頃でした。神戸人になり切ろうと思いましたからね。それから五年後に、神戸の生田筋に著名な淀川長治さんのお姉さんで〝お富さん〟といわれる評判の美女が『エバンタイ』というフランス風なアンティークのお店をやっていて、淀川さんが関学の学生で、朝も、昼も、夜も映画を観ている。映画のことなら何でも知っているが、あんなことで末はどうなるんやろ、とお富さんが心配しておられた（笑）その後ウィンドーに松葉清吾、福井一郎さんなど洋画家の絵をイーゼルを立てて飾ってあるが、絵が変らないし、ガランとして店は閉っていたようでした。この店を借りてアトリエにしたらいいなアとひょっと入っていったらお富さんが『絵描きには店は貸さへん。売らへん』とけんもほろろでした。フランス製のステンドグラスにチェコ製の一枚ガラスで、ここを借りてアトリエにしたいなあと思って熱心に頼むと『〇〇〇円持ってきたら下の店だけ売るよ』といわれ、至極簡単に成立したのでした。

そこで早速店頭をギャラリーとして先輩や後輩の作品を並べ、裏の庭をガラス屋根としてアトリエにすることが出来た。

そしてまず開店の目玉商品として、藤田嗣治展をこけら落しにやろうと思ったんです。東京のアトリエへ訪ねたらなかなか会えない。二日間面会を求めたが、女中に断わられた。三日目にマドレーヌ雪さん（藤田画伯の夫人）に会うことができたので、金沢出身で東京美校の後輩で彫刻志望の人間ですといったら何なくアトリエに招じられ、そして藤田画伯は『ケトウの嫁さんを貰って、オカッパでロイド眼鏡をかけている』と壮士風の人間が強迫に来たり、投書がこんなにあると洩らしておられた。「絵を貸してほしい」と切り出したら、『関西の画商は売れても金を入れないから絶対に渡さないが、でも君は商売人でなく、アトリエを作る資金のためなら貸してやろう』と、モンマルトルの丘の絵や、有名な猫の絵を貸して下さることになった。売価のことを聞くと『日本人はいくらでもいいといっていながら金を受けとって、あとで安いとぐぢぐぢ文句をいう、そんなのは嫌やだなア。自分の絵の価値は自分が一番判るのだから、はっきりつければいい』と手取値と売価を指定されたが、なるほど外国らしい、てきぱきした応待に敬服させられた。

オープンするやいなや初日に二枚売れて、すぐ送金したら〝早々と送金ありがとう〟と礼状が来て、翌日また売れて送金したら〝またまたありがとう。でもまとめて送ってくれ〟とたしなめられた。何と最終日までに十二点全部売れ、送金を済ませたら、一米ぐらいの巻紙で美しい毛筆の礼状が来たのですが、空襲で皆焼けてしまったが、今思っても実に惜しいですね。

一九三七年、戦前の作家生活のトピックとしては海軍監督庁長官『森住中将閣下の像』を制作する機会を得たことでした。戦時中に閣下の英断で極秘の重大な計画の指令を戴いたのですが完成を見ず終戦となったことは残念でした。

結婚は僕が二十七歳、彼女が二十歳の時で、琇紀、澤子の後に英子が生れ、その時、文展初出品の「立つ女」が一九四二年、第五回文展に入賞しました。」

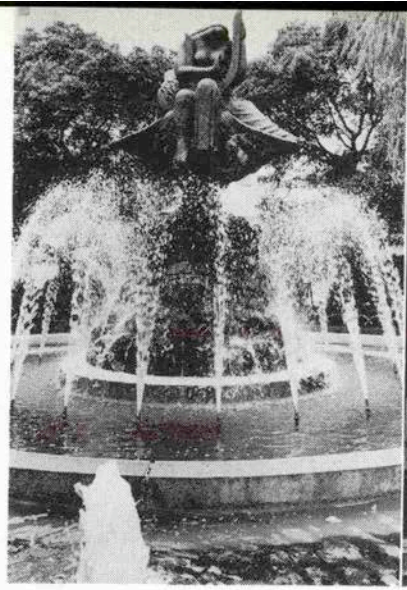
――戦時中は社町に疎開され、戦後間もなく神戸へ帰って来られましたね。

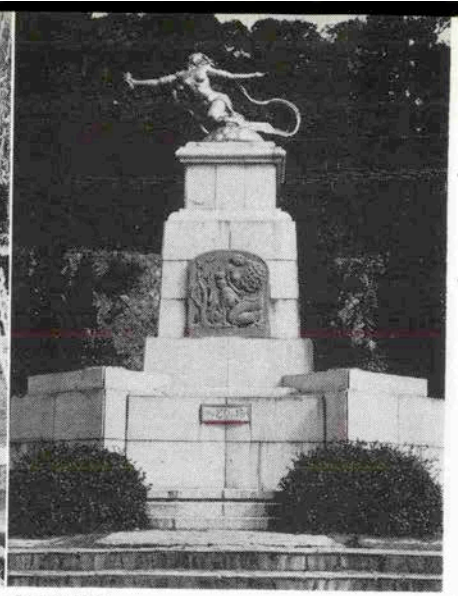
「海まで見える焼野ケ原の神戸の山手に呆然としたことを憶えています。手造りのアトリエ工事に着手し〝山手美術研究所〟を開設し、彫刻普及のためにアトリエを開放して山手彫塑塾とし一般に開放しました。

グループ組織として兵庫県彫刻家協会を結成し、戦後初の野外彫刻展を生田神社の境内で開きました。その後各地で一九七〇年までに九回の野外彫刻展を企画し開催しました。」

――野外彫刻展のきっかけは何だったのですか。

「親子でアトリエを使うので手狭となり、庭で仕事をすることもあるが、彫刻が青い空や輝く太陽のもとに深い陰影を刻むのは実に素晴しい。





左・「みどりの泉」、右・「みどりの塔」

今までの彫刻は、人工光線を受けて室内に展示されるものでしたが、エジプト、ギリシャ時代のように白日のもと雄大な空間に対比した彫刻の魅力には、室内とは較べられないものがありますね。」

――一九五四年の須磨浦公園みどりの塔「薫風」や、翌年の「みどりの泉」を初め、神戸の街や兵庫県各地の「都市(まち)と彫刻」づくりに力を傾けられた開拓者(フロンティア)ですが〝家族〟〝母子〟〝平和〟などといった人類愛のテーマが多いですね。」

「彫刻は遊びだとかイデオロギーはいらないという考えもあるけれど一時的な傾向でしょう。

深く物事を考えて、本心の叫びを真摯な態度で表現したいし、国だけの力ではどうにもならない〝平和への願い〟を訴えてゆきたい」

――二紀会の委員からフリー活動をされたのは？

「長男を介してグレコ氏に出会った時、日本人はグループの組織で活動することが多い、イタリアでは芸術家の殆んどが個の単位です。その上でほんとの仕事をすることです、と話されたことがある。

日本は芸術家が多すぎて競争がはげしく、そのため肩書の欲しい人間が多くなり、他の作家を誹謗する者もでてくるのでしょう。余技ではなく専門家として自分自身を築き、個の単位で、野中の雑草でいい。ふみにじられても飛び越えて一輪でもいいから咲きほこって行きたいと思いますね」

七九歳を迎えた新谷さんの言葉には重みがある。増田洋氏が「彫刻歴60年のほとんどを都市空間における彫刻を開拓することに費した。ことに戦災から復活する都市空間の形成期に、新谷さんの活動は鮮烈であった」と評されている。神戸の街のイメージづくりに彫刻家として開拓したフロンティア精神は今もみずみずしい。

（文責・編集部）

■第10回神戸文学賞受賞作
連載小説〈2〉

ちっぽけな海賊

塚田照夫　絵／辻　司

浜次には、父親の背中が黝ぐろとした岩のように見えた。

——唐人は、板戸から解きほどいて、海中の、潮が息をしながら流れこんだり退いたりしている深い窪みの岩に、グルグル捲きにして縛りなおした。

潮が、のたうちながら被さりかかって、その洞窟状の岩の隙間に流れ入ってくると、唐人は、白い重吹と泡だちの底に見えなくなった。潮が引いたあいだだけ、その顔が近ぢかと浮きあがった。これならば、干潮時でも、よほど注意して覗きこまないかぎり、唐人の屍体は見つかりそうになかった。

浜次は、裸になり、なんども潜って屍体をくくり了えた。最後に、唐人の口を結ばせ、眼を瞑らせてやった。見ひらいた切れ長の瞼を押し下げるとき、水中で浜次も眼をつむった。凝視められていそうで気味が悪かった。

仕事のあいだじゅう、怖くて震えていた。海の冷たさからではなかった。

波のこない岩に這いあがって、浜次は、恐るおそる、唐人の沈んだ岩礁の洞をふりかえって見た。とたんに、海水よりも冷たい風のようなものが、浜次の頭のてっぺんから足の先まで吹き抜けた。そのとき、唐人の顔が波間にあらわれ、眼を開けて浜次を見たのである。

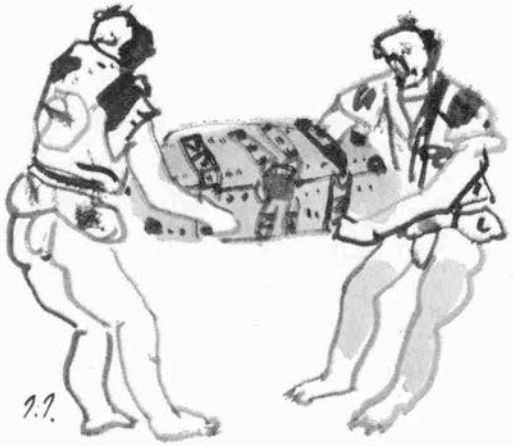
恨めしげな眸だった。口も動いた気がした。唐人は、たしかに眼を開いて何か言ったのだと、浜次は信じた。

（こン唐人な、死んどらんぞ、ほんとは）

浜次は、総身の毛穴が縮み、いっぺんに鳥肌だった。

——

「唐人な、ほんなこと死んじょったとじゃろな」



浜次は櫓を押しながら、父の背中に訊ねた。心細くなり、なんとかこの頼母しい父に力づけてもらいたくなったのである。

ところが岩吉は、それを聞くなり、胡坐の尻を浜次へ捩じむけて、びっくりするような大声をあげた。

浜次の問いかけが、岩吉の不安と恐怖を刺したのだ。

「バカもん。死んじょらじゃ。死んじょった。われの方がよう知っとろもん」

板戸に縛りつけられた唐人の縄を解き、抱きかかえて海に沈め、もいちど海中の深い岩間に括りなおしたのは、ほかならぬ浜次だった。浜次の方が、唐人の死んでいるのを『よう知っとる』のにちがいなかった。

「そうやもんな。死んじょったもんな」

浜次は、悲しそうに頷いて言い、力をこめて櫓を引いた。

三

片割れだが月がある。それで、あたりは仄かに明かるい。

だからというのではないが、低い板屋根に石を載せた浜の家いえからは、戸外へ洩れて出る灯はなかった。みな寝入っているのだ。

磨り減って丸くなった自然石を、土壇のへりに並べただけの、七、八段のゆるい石段を降りると、浜だ。足半の下で、白く乾いた砂がかすかに軋んだ。

すぐに、水を含んだ砂州の、いくらか堅い感触が、足半から踵へ伝わった。岩吉と浜次は、昼ま、半分浜に乗せかけておいた自分たちの舟へ近づいた。いまは、潮が退いているので、舟は丸まる浜の上にあった。

浜次が足掛け上がりに舟に跳び乗り、すぐ胴間板を剝がしにかかった。

「ここに、こンまま入れといた方がよかかもしれんぞ」

くぐもった声で浜次が言った。舟底の活け簀に隠した金箱のことである。

家へ運んでも、金櫃の隠し場所に困るのだ。ひとまずは、これも岩吉の考えで、裏の雞小屋の下の土に埋めることにはしている。

「毎日ンごと、沖へ運んで往ったり来たりするとな？」

夜声八町（約八八〇メートル）というから、岩吉も声を押し殺している。

「そやもンな」

浜次は、言ってみただけのようである。

活け簀におろしたときと違って、金櫃を水底から抱えあげるとなると簡単にはいかなかった。岩吉も舟に上がった。

まず、汐水を含んで重くなった網を引き上げた。網を活け簀漬けにしておいたりしたら、非常識を他の漁師仲間に見咎められる。それから金櫃を抱え出した。すべて二人がかりでやった。

「重かな。どンくらいあるじゃろか」

と、浜次が岩吉の耳もとで囁いた。

「弁指っどんたちの上納銭箱は、あれで十貫目（三七・五キロ）ぶんげなぞ。運びやすかごと（ように）じゃろな」と岩吉も低い声で言った。

「こらァ、そいじゃきかんぞ。倍はあろ」

「そんなら二十貫たい。そげんなかろばってん、銀ばかっしじゃけんな。鐚銭じゃなかぞ」

「底から銀ばっかしやろか」

「そらそうたい。唐人どんの命の担保じゃけん」

「そうやな」

声を低めている分だけ互いの興奮が感染し合って、それがだんだんと増幅していく。

――蟇ン瀬で、唐人の首に吊った鎖の先の鍵を見つけ、開けてみた金櫃の中には、大小厚薄さまざまに、どれくらいあるか見当もつかない銀が、ビッシリ詰まっていた。

ひと目見て、岩吉も浜次も息を呑んだ。岩吉は怒った眼つきで、箱の中の銀の板金や塊りを睨みつけた。浜次

は、見るみる唇を紫色にし、口を開け、わななきながら、ただ屑金のような銀の堆積を指差しているばかりだった。

いびつな、三角や四角の板片れの銀が多かった。握り固めただけのようなのや、歪んだ玉になったのもあった。竜を鋳出した薄くて円る銀貨もあった。岩吉らが一生かかっても拝めさえしない額のものだった。——

浜次が、赤児を負うように金櫃を背負い、岩吉が金櫃の尻をかかえて運んだ。岩吉は、なるべく浜次にくっつき、月明かりのなかでフト見られても、一つの人影に見えるように気をくばった。

家へ帰りつくと、そのままの格好で、隣家との狭い隙間を背戸わへ抜けた。ところどころ反りかえって泥壁のむき出た破目板に、屋根とも言えない板を差しかけて拵えた小さな雞小屋がある。

そこへ行って二人は、ようやく金櫃を地面におろした。気配で、なかの雞が喉を鳴らして動いた。

連子窓の下に蓑やリプキ（背負い子）やといっしょに掛けてある鍬を、岩吉は黙って外した。鋤はその下にたてかけてある。これは浜次が取った。

岩吉は、雞糞が下に落ちやすいように、竹の簀子にしてある雞小屋の床下に敷いた莚を引きずり出した。莚の上には、雞糞が汚いかさぶたのようにコビリついていた。

莚を引っぱり出したあとの地面を、岩吉は黙々と掘りはじめた。掘った土は浜次が掻い出した。

岩吉が、雞小屋の下の土中に金櫃を埋めることを思いついたのは、そこなら、雞糞をときどき掻き出したりするから、周りの眼をごまかすのに都合がよいと考えたからだ。糞は莚に拡げて乾かし、溜めておいて売る。

金櫃を埋めおわると、さっき引っぱり出した古莚を拡げて押しこんだ。

いつものことだ。怪しまれる筋はない。残った土は、葱や菜っ葉などを植えてある二坪ほどの畑、というより空き地に、畝を立てる具合に置いた。岩吉はなかなか周到だった。作業は、意外と手間を喰った。

「なんぼしょっとですな」

さわの声が背後でした。闇明かりのなかに、洗い晒した浴衣の袖を胸前で合わせて、さわは仄白く立っていた。

岩吉も浜次も、ギクッとして振り向いた。

浜次には、さわは幽鬼のように見えた。ゾーッとしながら、つい、

「バカが」

と、声が出た。

「何んがですな。夜釣りに行かすとなら、そげん言うちょかっせばよかとに。握り飯なっとつくりやしたとに」

何がバカなんですか、とさわは浜次へ言いかえしている。寝呆けてはいないのである。そして鬢のあたりへ、ちょっと手を上げた。

「行こうと思うたばってん、昼出たときに暴れとったけん、どげんじゃろかと思うて、さっき浜次と浜に見にいったけんど、やっぱり無理のごたる。夜釣りァやめたい」

海は、夜釣りに出られない海ではなかった。それでも、そういう風に説明した。岩吉は、自分と浜次のしたことを、さわがどのあたりから気づいていたのか見当がつかずに困った。金櫃を雞小屋の下に埋めたものはもちろん、その前に浜次と、舟へ金櫃を取り出しにいったことも、みな知っている気がした。それで、浜次と二人浜へいったわけまで、用心深く釈明したのだった。

浜次も、さわはよほど前から、親父と二人がかりの仕事を窺っていたのではないかと疑った。さわには、そんな抜け目のないところがあった。

岩吉父子には、さわが急に重荷なってきた。浜次は、一家三人の行く手に、なんとはない不安を感じた。

しかしこれは、岩吉と浜次の方が理不尽というものだ。当然こんどの企みでは、当初からさわの存在は考慮のうちに入れておくべきだった。さわに秘密にしてやれることではない。うちあけて加担させなければならぬ、もっとも肝要な者のはずであった。

それを、突然の闖入者のように岩吉も浜次も、さわを受けとった。さわの出場が早すぎたのかもしれなかった。

「バカが」

浜次はもう一度さわに言った。「早う寝れ。あしたは早かぞ」

あしたといっても、もう今朝だ。そんな時刻になっていた。

さわは二十。浜次と夫婦になって三年の余になる。子を生まなかった。

「さわは、口は堅かけん」

浜次は櫓を漕ぎながら岩吉に言った。岩吉は答えない。

「近所付き合いなんどは、ようする方ばってん、芯な強か女子じゃけん、口は固か」

浜次は父親に、さわをとりなす口調でかさねて言った。

それでも岩吉は黙りこんでいた。

浜次はさわを好いていた。浜郷や職人郷の女ごどものなかでは、器量もまァまァだと満足であった。ただ、石のような女だと思うことが、ときどきあった。格別冷たいとか、素っ気ないとかいうのではなかったが、さわの躰のどこかに芯みたいなシコリがある気が、浜次はしていた。

夜の時でも、さわは、ほとんど仰向けになったきりで浜次を迎えた。一間（一・八メートル）ほどしか離れていない隣室に寝ている岩吉に気をつかいながら、それでも、なんどか小さな声をあげるのだが、熱く浜次を抱くことはなかった。それでさわは子が生めないのだ、こういう女ごをほんとの石女というのだろうと浜次は思っていた。

岩吉と浜次の舟は、多郎島の鼻を出はずれた。左手に和島が見える。蟇ン瀬は海の下で、あたりは白しろと波立っていた。

「行ってみるかの？」

浜次が訊いた。むろん蟇ン瀬へ、である。

「バカたれ。そげんことばしてみれ、怪しゅう思わるッじゃろが。バカもンが」
岩吉は、はじめて口を利いた。憤って息まいている。それきり、また黙りこんだ。
海底に珊瑚礁のある和島の先が、きょうも目的の漁場である。
浜次は、和島の磯をなるべく離れて漕いだ。自然そうなった。ときどき、泡立っている蟇ン瀬へ瞳をやった。
岩吉は躯を斜にして、むりにそっちを見ないようにしている。
「今朝早うに、誰か家にこんじゃったな」
岩吉がボソッと訊いた。
浜次は愕いて父親を見た。思いなしか肩が落ち、きのうの勢いに似ずションボリしているように息子には見えた。
「だれが来るもンかの、そげん早うに」
「そうかのう。そげんじゃろのう。戸を叩く音のしたごたったけん」
「そらァ、風たい」
「夢どん見たかな」
岩吉は、息だけで嗤った。
とたんに浜次は、全身に冷水を浴びた気がして悪感がした。いまにも、長い髪をおどろにした唐人が船縁に手をかけて顔を出すのではないかと思った。あの、恨めしげな瞳を大きく見開いて、だ。
(家にあん唐人の来たとじゃなかろか、銭ば、取り戻しに——)
「きょうは漁は止めて帰らんな?」
岩吉が、だしぬけに言った。
「そうな。そうするかの」
浜次は、すぐに舳を回しにかかった。薄気味悪くなって、自分でもそうしたかったところだった。
(とにかく蟇ン瀬はいやばい)
「あくせくせんでン(も)銭ンなら箱いっぱいあるけんな」
と、浜次は言った。
「あン銀な、いっときは遣われんとぞ」
岩吉はすげなく答えた。
「危かろか」
「危かちゃ」
舟は完全に陸へ舳を向けた。
「おどんら貧乏者ンが、持ちつけん物ンば持てば、すぐ目につこが」と、岩吉は訳を言った。
「そんなら、いつまでン銀は遣われんたい」
理屈である。いつまでたっても、かれら父子が、派手に銀を遣える身分になれる望みはない。
「そイじゃけん働くとたい。働く振りなとするとたい。そして金まわりのよか風に見せかけてから、銀ばちィっとずつ取り出して遣うとたい。われァ、五郎助どんの後ン仕事はいつからな?」
岩吉の構想はなかなか遠大で慎重だ。五郎助は、浜次の船大工の親方である。
「そろそろじゃろばってんな」
浜次はいくらか間伸びがしている。
「そんならば、そン仕事ン終わったら、こんどはわれが棟領で舟ば造れ。損得はよかけん、よか舟ば造れ。そしたら、またあとの仕事もくるたい。わしも毎日海に出る。漁のあろとなかろと沖さん(へ)出る。そして、とにかく働くとたい。見せかけでン(も)そうせにゃァ」
岩吉は何かに挑んでいる。憑かれた者のようであった。
(なるほど、親父は頭ンよかばい)
浜次は感心した。

四

「浜次よ。だれか戸口に来とるぞ。浜次よ。さわ。だれか来とるぞ、出てみれ」
また岩吉である。このごろ毎夜だ。それもきまって夜

なかの八ッ刻（二時）ごろである。
「また始まった」
浜次は、おなじ寝床のさわと眼を見合った。さわも眼を覚ましている。どちらも、こう毎晩では、時刻になると、もう始まるのではないかと気になって眼が冴えてしまう。
浜次夫婦が、岩吉の様子が変なのに気づいたのは、夏の盛りのころだった。初めのうちは、この『浜次よ』もたまさかだったが、このごろでは、ほとんど毎夜なのである。もっとも、浜次だけは、事件を起こした日の翌日の舟のなかで、岩吉の異状のはしりを早速経験している。そのときは、岩吉は『昨日だれか家ィ来んじゃたな』と浜次に訊き、『夢ども見たとじゃろ』と自分で声をたてずに嗤った。
「雨の音たい。だれも来とりゃせん」
あちこちそくってある襖をへだてて、浜次は岩吉にそう言った。はじめのうちは、浜次も、あまりしつこく『浜次よ』と呼ぶので、気になって戸を開けて確かめてみたりした。いまではウンザリしている。
ほんとに戸外は雨だった。夏の送りの雨だ。
「雨じゃなか。人じゃ、だれか人の来とるぞ」
「だれも居らんテ。こン夜なかに、だれが来るもンの」
たまらず浜次は、さわの脇を脱け出して襖をあけた。
「ああ？　雨ちゅうたな？」
岩吉は首をこっちへ捩じ向けていた。
「雨なィば、鳥屋ン糞の濡ればせんな？」
「鶏糞な、きのうお父っつぁんの卯太どんに売しなさったろが」
さわが寝たままで岩吉へ言った。そして、声を低め、浜次への嫌味を露骨に、
「こンごろは、鳥屋ン掃除は、おどんにァさせらっさんとけん」
と、寝返りをうってあちらを向いた。
「眠らんな。どうせあしたも沖にァ出んとじゃろが、天気も悪かごたるし。昼寝てばっかりおるけん、夜眠られんとたい」
浜次は岩吉に言って襖を閉めた。たいていは、このへんで岩吉は治まる。
「耄碌する年でンなかろに。ほんに、こっちが気違いになろごたる」
さわはもう一度寝返って、煎餅蒲団の上に膝をそろえて坐っている浜次へ、隣りの部屋に気をつかいながら声をひそめて愚痴を言った。
浜次には、岩吉の、狂った夜な夜なの繰り言の意味がよくわかる。唐人が仕返しにやってくる妄想に怯えて、平静な心を乱されているのだ。雨に鶏糞が濡れると心配するのも、鳥屋の下の土中に埋めた金櫃が気になるからだ。
このごろでは、浜次まで、浮かばれぬ唐人の亡霊が、ほんとに毎夜のように金櫃を取りもどしに来ているのではないかと、空怖ろしくなることがある。いや、ひょっとすると、夜ごとやってくるのは、生きている唐人ではないかと、本気で考えることがある。
岩吉だけでなく浜次も痩せた。船造りの手間稼ぎが忙しいばかりではなかった。
さわが、だしぬけに訊ねた。
「あたんたちァ、おどんに何か隠しとろ？何ンな？　いったい、何ンのあったとの？」
浜次はうろたえた。
さわには、まだ何も教えていない。打ちあけよう、打ちあけようと思っているうちに、岩吉が変になってしまったのだ。
と、仕切りの襖がガラッとあいた。まっ黒い影になって岩吉が立っていた。
「何ァんも隠しちゃおらんぞ。隠しちゃおらん」
岩吉の影は、籠もった声で言った。
さわはハネ起きて、浜次にしがみついた。
襖は、音をたてて閉まった。
（つづく）

神戸っ子と出合う時

月刊「神戸っ子」は思いがけないところで…

オリエンタルホテル
神戸ポートピアホテル
ニューポートホテル
三宮ターミナルホテル
ホテル神戸
神戸ワシントンホテル
グリーンヒルホテル
ホテル三宮セントラル
タワーサイドホテル
サンサイドホテル
雅叙園ホテル
六甲オリエンタルホテル
六甲山ホテル
六甲スカイヴィラ
神戸チサンホテル
ホテルプラザ（大阪）
ホテル水上
パレス神戸
花ホテル
神戸文化ホールPG
シネマガイド
兵庫県民会館
神戸国際港湾博物館
神戸市中央市民病院
そごう神戸店美術画廊
ギャラリー・ド・ラ・ペ
ギャラリー・タピエス
ファミリア北野坂ハウス
MAVIE
ブティック魔女／アトリエよしこ
テルミーニ
フィッシャマンズポート
れんが亭
トム・キャンティ
ガストロノミ
ヤマト化粧品店
キャノン
にしむら珈琲各店
ハイジ芦屋店
ロビンフッド（加古川）
クラブ小万
クラブさち
柊
萩原珈琲店
東京宝塚劇場 宝塚センター
サルトラテ北野
レストランサルーテ

★**定期購読のお申し込みは**
1年分5500円
郵便振替口座神戸6-9-45196

★発行にいろいろお世話いただいた方々

朝比奈 隆　上林 英一　直木 太一郎
青木 重雄　坂井 時忠　中西 勝
乾 豊彦　佐藤 廉　難波 還
石野 信一　司馬 遼太郎　南部 圭三
石阪 春生　新谷 英夫　成瀬 香梅
石田 一一　塩路 義孝　灘本 唯功人
榎並 正一　砂田 重民　西村 福冨 芳美
牛尾 吉朗　角南 猛夫　松井 一郎
崎 忠　滝川 清一　松井 高男
岡野 一夫　滝川 勝二　松木 良一
小野 喜八郎　田宮 虎彦　三木 雄一
鬼塚 彦　田中 健一郎　宮崎 辰雄
金井 元　田辺 聖子　宮地 裏二
貝原 六一　高橋 舜臣　宮本 正二郎
柏井 健一　陳 孟　百崎 雄
嘉納 毅六　田崎 俊作　村上 正
嘉納 正治　高和 一　淀川 長治
楠本 憲吉　津高 準之助　行吉 哉女
小磯 良平　竹馬 健吉　元永 定正
小泉 徳一　外島 健　神戸青年会議所
神戸百店会

●神戸っ子は左記の書店で

★**神戸市東灘区**
大文堂
ウオザキ書店
小原光文堂
本山宝盛館
北村書店
キティ書店
御影宝盛館
甲南堂
ブックスホーリン
甲南ブックス
御影ブックス
甲南大学生協
グリーンブックス
★**神戸市灘区**
雄倉書店
南天荘書店
啓文館
ユーカリ南天荘
ブックスのじぎく
ブックス六甲
神戸大学生協
★**神戸市中央区**
宝文館
海文堂
丸善
日東館書林
りいぶる元町
ホンジョー
サンエー書店
漢口堂書店三宮店
ジュンク堂書店
流泉書房
コーベブックス
ラン書房
カスガノ書店
ブックスフジヤ
ケイガ堂
白樺書店
AZ
朝日屋ポーアイ店
三宮ブックス
芸亭
★**神戸市兵庫区**
神文館メトロ店
隆司書房
漢口堂書店
かもめ書店
合城屋書店
シオサイ
★**神戸市長田区**
日東館長田店
秋田百文館
高田屋書店
★**神戸市須磨区**
岡本書房
神戸書林
すま書房
源氏書房須磨寺店
博文堂書店
流泉書房
★**神戸市垂水区**
広文館
漢口堂明舞店
日東館垂水店
★**神戸市北区**
漢口堂西鈴蘭台店
★**大阪市**
紀伊国屋書店梅田
★**西宮市**
千種書房
みどりや書店
夙川書店
アイビー書房
華文堂
大盛堂書店
★**宝塚市**
川瀬書店
宝塚書店
キリン堂書店
★**芦屋市**
芦屋宝盛館
大利昭文堂
★**明石市**
木村書店
ブックスハルミ
坪井書店
森田書店
★**加古川市**
ブックスアルファ
吉村書房
詳文館
★**姫路市**
三耕堂
誠心堂書店

●編集後記

★この月刊神戸っ子が呱呱の声をあげて、早くも二十五年を経過した。

この機会にもっと神戸の文化を進める手だてがないか、いろいろ案を練った。そして、いよいよ「神戸っ子倶楽部」の企画を進めることになった。そして、二千人から三千人の会員を確保しながら会員の交流もできるような文化倶楽部に育てたい考えである。乞ご期待。＜小泉康夫＞

★〝ドーンと勢いで結婚しよう〟なんて、独身にとってはいい言葉ですね。ほんとムリヤリ眼をつぶって飛ばなくては何にも出来ない世代になると、若くてそれなら、ムチで叩いてド・ドーンと勢いつけて、エイヤッと秋へ飛んでゆこ。

＜小泉美喜子＞

★恒例の結婚特集号。最近の事情を知りたく数人に話を聞いた。当然、時代とともに変遷がある。しかし不変の部分もある。それが検証できる迄は独身でいようと思う。＜佐井＞

★「人は間違った理由で結婚し、正しい理由で離婚する」三枝先生のエッセイにあった名言に感心することしきり。間違いと判っていても辞められないのが男女の仲?! ＜米沢＞

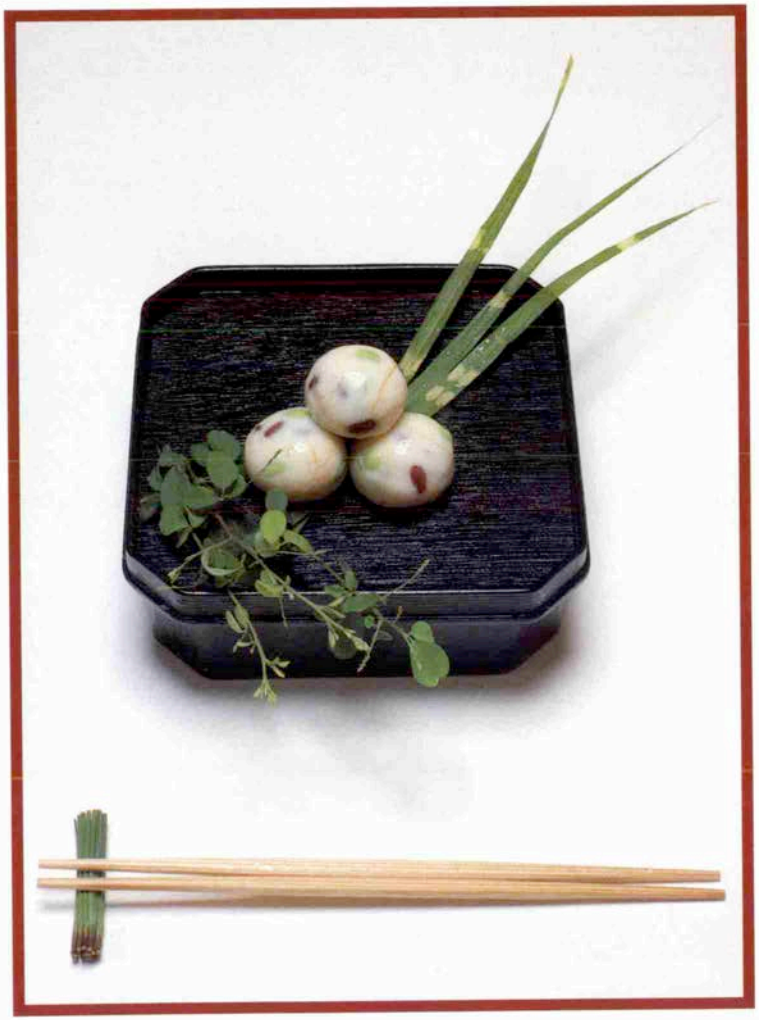
★余分なものはどんどん削ぎ落としていって自然な表現になれたという東仲さん。淡々と力まず、涼やかに歩んでいきたいですね。 ＜瀬川＞

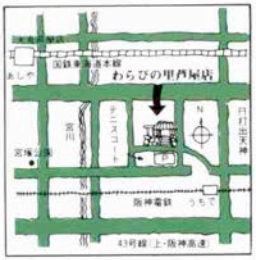
★久々に聴いた生のヴァイオリン演奏が四方さんの優しく流麗な調べ。アンエールのクライスラーに思わず背筋がゾクッ。快感でした＜西村＞

★ウォーターフロントの再開発に注目が…。洒落たものじゃなくても、人工の砂浜があり、裸でぶらつける街でもあれば嬉しい。 ＜新井＞

神戸っ子 NO・305
★発行／61年9月1日
★編集・発行／小泉康夫
★発行所・神戸っ子編集室
神戸市中央区東町113ノ1
大神ビル9階
☎078（331）2246（代）
FAX・078・331・2795
頒価380円 送料70円

中秋の名月をめでながらの京料理





京料理
わらびの里

■芦屋店

芦　屋：打出小槌町30
℡（0797）23・5666
営業時間：午前11時～午後10時（駐車場有り）

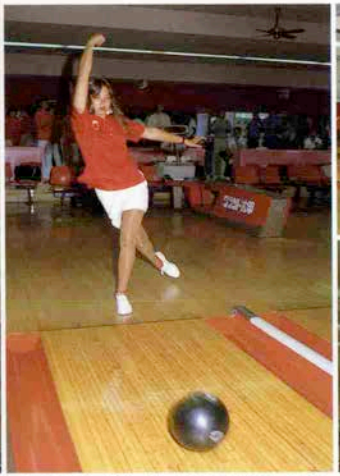
京都本店：京都・山科区小山中島町28
℡（075）591・0911

新　宿　店：東京・新宿区西新宿2の4の1
新宿NSビル1F
℡（03）349・8789

'86デイリースポーツ・江崎グリコ杯

日米親善ジュニアボウリング大会

8月7日、ハワイから招かれたジュニアボウリングチームと関西のジュニアチームとの熱戦が当グランド六甲において繰り広げられました。国際親善の一翼をにない、ジュニアボウラーの育成に貢献できた事は誠に喜ばしい限りです。これからも実力とマナーを備えたジュニア育成に努力致します。



開会式を華やかに盛りあげた神戸市消防音楽隊(右上)グランド六甲所属ジュニアの米澤正典君と林寛子さん(右下)女子個人優勝のサンディ・ヘッジ(中)ハッピ姿で和気アイアイのハワイチーム(左上)女人4人チーム戦表彰式(左下)

Grand Rokko

国鉄六甲道駅南へ3分 国道2号線沿
灘区友田町5-2-3 ☎078(841)3151㈹
駐車場完備(180台収容)

神戸のうまいもんとドリンキング

★日本料理

讃岐名代うどん **あこや亭**
布引店 ☎231-6300 三宮店 ☎332-3003 住吉店 ☎453-3737
兵庫駅前店 ☎575-5306 ポーアイ店 ☎303-1188
ポーアイプラザ店 ☎303-3232

北海道郷土料理 **蝦夷**
中央区中山手通1－4－13 ☎ 331－7770
東門筋東門会館ビル1階

和食 **くれない**
三宮生田新道浜側中央KCBビル2F ☎ 331－0494

料亭 **布引大しま**
中央区熊内町4－8－19 ☎ 221－1945

たこ焼 **たちばな**
三宮センター街(旧柳筋) ☎ 331－0572

民芸郷食事処
炭焼ステーキ **五事**
元町3丁目山側 ☎ 391－3156

炭焼やきとり **トリドリ**
中央区北長狭通2－5－1 ☎ 391－3028
タイシンサンセットビル2F

そば処
手打ちうどん **木曽路**
フラワーロード市役所前KEビルBF ☎ 231－1295

どじょう **吾作**
中央区元町通2－7－20 ☎ 321－0539

鍋・しゃぶしゃぶ **三十三間堂**
神戸ワシントンホテル2F ☎ 331－6111

割烹 **銀坐**
神戸ワシントンホテル2F ☎ 331－6111

手打そば処 **つる庵**
市役所花時計北・ハニービルB1 ☎ 331－0260

季節茶屋 **一輪一房**
中央区三宮町1－8－1 ☎ 331－2280
きんプラザB1F

天ぷら **天ふじ**
中央区北長狭通2－5－17 ☎ 392－3630
サンセット21ビル1F

SAKE & KAISEKI **喜兵衛**
中央区山本通2－1－1 ☎ 242－5411
コーナーハウス2階

懐石料理 **馳走**
中央区山本通4－26 ☎ 222－6022

割烹・郷土料理 **千石船**
きんちか店 ☎391-4875 山手店 ☎391-9314

活伊勢海老料理 **中納言**
神戸プラザホテル店 ☎331-7918 元町東店 ☎392-1685

懐石料理 **楽珍**
阪急西口店/阪急三宮西口北レインボープラザ3～4F ☎321-5200代
宴会場/神戸三宮生田筋 西村ビル3～4F ☎332-1717

鰻料理 **青柳**
中央区元町通3－63 ☎ 331－2292

★各国料理

レストラン **やまと**
中央区生田町1－4－20 ☎ 242－2020代

レストラン 鹿鹿園 **皮〈あらかわ〉**
中央区中山手通2－15－8 ☎ 221－8547・231－3315

ステーキハウス **グリル青山**
中央区下山手通2－14－5(トアロード) ☎ 391－4858

スカンディナビア料理
と世界の民族音楽の店 **ゴックスタッド**
中央区山本通3－1－2 回教寺院前 ☎ 242－0131

ステーキラウンジ **果林**
神戸プラザホテル2F(元町駅南) ☎ 331－4558

すていきハウス **長崎**
神戸市中央区布引町2－3－16 ☎ 221－1086

レストラン **花扇**
中央区元町通1－3－6 Lビル2F ☎ 331－8911

メキシコ小料理亭 **ティファーナ**
中央区中山手通1－21－13 ☎ 242－0043
パールコーポラスビル1F

フランス料理 **ビストロドゥリヨン**
中央区山本通2－13－6 ☎ 221－2727

レストラン **麻布キャンティ**
中央区北野町4－1－12 異人館倶楽部 ☎ 222－5380

ポリネシア料理
海鮮焼 **フィッシャーマンズポート**
神戸港第4突堤ポーターミナル ☎ 331－0301

シーフードバー **ムーニークルーズ**
三宮・生田筋 ☎ 331－8980

喫茶・レストラン **カフェパウリスタ**
三宮・トアロード(パウリスタビルB1) ☎ 391－0061

ステーキハウス **れんが亭**
中央区下山手通2－5－5 ☎ 331－7168

BARBECUE & STEAK **六段**
中央区元町通3－8－4 ☎ 331－2108

フランス料理と
神戸ビーフ **レストランフック**

フランス風中国料理 **夢香亭**
中央区栄町通2－9－11 ☎ 321－3453
321－3207, 332－4129

サンバと
ブラジル料理 **コパカバーナ**
中央区中山手通2－1－13 ☎ 332－6694

ドイツレストラン **ハイデルベルグ**
中央区山本通2－8－15 ☎ 222－1424
ローズガーデン2F

ドイツワイン・コーヒー
プティック **ローテ・ローゼ**
中央区北野町4－9－14 ☎ 222－3200

韓国宮中料理 **鳳仙**
中央区北長狭通1-6-10 ニューキャスルビル6F ☎391-2147

スペイン料理 **エル・ソル**
神戸市役所前・フラワーロードビル1F東側
☎ 232－3636

シルクロード料理
スパイスレストラン **ぷはら**
三宮町2－3－9 タキビル2F ☎ 331－1734

神戸ビーフ登録指定店
三田肉流通振興協議会
指定店 **和黒〈わっこく〉**
中央区中山手通1－24－1 ☎ 222－0678
ビルサイドテラス1F

スコッチ&
ローストビーフ **ガスライト**
神戸ワシントンホテル9F ☎ 331－6111

フラメンコと
スペイン料理 **エル・パンチョ キタノ**
中央区北野町3－2－4 ☎ 241－1344
アニルド・マンション1F

中国料理 **萬壽殿**
中央区中山手2－20－4 ☎ 231－4531

フランス料理 **ルー・サロメ**
中央区中山手通2－3－7 ☎ 392－1251
第2六門亭ビル1F

北イタリア料理 **ベルゲン**
中央区山本通2－3－2 ☎ 241－6952

SAPPORO BEER
RESTAURANT **ニューミュンヘン神戸大使館**
三宮生田ロード ☎ 391－3656

ステーキハウス **伊藤**
中央区御幸通7－1－20 大信ビル8F ☎ 232－3031

炭焼ステーキ
フランス料理 **GOONY KITANO**(グーニー北野)
中央区北野町4丁目 ☎ 242－2562

神戸風レストラン **能芭亭**
中央区北野町2丁目1－10 ☎ 291－0661

フランス料理 **シャンテクレール**
三宮ターミナルホテル4F ☎ 232－1682

フランス料理 **トゥールドール**
中央区諏訪山公園展望台 ☎ 241－0168

ステーキ&
ドリンクス **神戸館**
中央区下山手通2－2－9 ☎ 321－2955
アマツビル1F

広東料理 **神戸元町別舘牡丹園**
元町通1丁目協和銀行北側小路西入る
☎ 331－5790・6611

レストラン **ラ・ターブル**
神戸市中央区山本通3丁目3番8号 (パールビルB1)
☎ 241－3170

★喫茶

珈琲館 **たちばな**
中央区元町通3－9－2 ☎ 391－1051

サロンドティ **カレット**
元町一番街 ☎ 321－1739

カフェド **ラセール**
新聞会館1F ☎ 221－8155

喫茶 **ガーデニア**
中央区東町113－1 大神ビル1F ☎ 321－5114

喫茶 **ガーデニア**
中央区三宮町3－8 大和ビル ☎ 392－4004

LE CAFE **ガレ**
中央区山本通2－3－14 ☎ 242－7144

宮水のコーヒー **にしむら珈琲店**
中山手店・中央区中山手通1－26－3
☎ 221－1872・231－9524
三宮店・国鉄三宮駅山側 ☎ 241－2777
センター街店・中央区三宮町10－27 ☎ 391－0669
北野店・山本通2－1－20 ☎ 242－2467
(会員制) 3F事務所 ☎ 242－1880
阪急・三宮東口山側 ☎ 332－5727

珈琲 **モーツアルト**
中央区山本通2－6－11 ☎ 241－3961
グランドマンション1F

珈琲 **ん**
中央区三宮町2－9－6(トアロード) ☎ 391－1589

喫茶館 **英國屋**
神戸国際会館浜側 ☎ 251－4562

喫茶館 **葡萄屋**
三宮センター街3丁目 ☎ 391－9006

喫茶館 **仏蘭西屋**
三宮・フラワーロード(神戸市役所前) ☎ 232－4643

デザート喫茶 **ぶどうの木**
三宮・フラワーロード(神戸市役所前) ☎ 251－3231

ウィーン菓子 **モーツアルト三宮**
中央区磯上通8－1－29 ☎ 251－3616
カサベラビル1F

ウィーン菓子 **モーツアルト元町**
中央区三宮町3－1－3 ☎ 332－0886
神戸大丸山向い

茶房 **ナイル**
中央区下山手通6丁目2－7 ☎ 341－7376

喫茶 **モンブラン**
フラワーロード市役所前KEビル1F ☎ 231－3605

コーヒーラウンジ **カフェ・ド・パリ**
神戸ワシントンホテル2F ☎ 331－6111

TEA ROOM
& LITTLE SHOP **ファミリア北野坂ハウス**
中央区北野町2－8 ☎ 222－3535

純喫茶 **元町サントス**
中央区元町通2-3-12(元町通1番街浜側) ☎ 331－1079

コーヒーラウンジ **City of City**
中央区三宮町3－9－1 ☎ 331－1117

ティー&スナック **エポック**
中央区元町通3－8－8(浜側) ☎ 331－3694

喫茶 **テルミーニ**
中央区国鉄元町駅構内 ☎ 332－1682

炭火焙煎珈琲 **珈琲倶楽部**
神戸市中央区北長狭通1－10－6(生田筋)
ムーンライトビル1F ☎ 332－2016

炭火焙煎珈琲 **萩原珈琲店**
神戸市中央区中山手通2－21－3
☎ 222－1457

Salon & Cafe **BLUE MOUNTAIN**
神戸市灘区八幡町4－6－16
(阪急六甲駅下車南口西南約3分)

TEA LOUNGE **T / O / A**
神戸市中央区下山手通3－1－15
☎ 331－4412

フルーツショップ
フルーツパーラー **ベニマン**
神戸市中央区北長狭通4丁目3番24号 ☎ 331－8584

★CLUB

club **飛鳥**
中央区中山手通1－2－6 ☎ 331－7627

club **小万**
中央区東門筋中島ビル3F ☎ 391－0638・4386

Member's Lounge **異人坂**
中央区北野町2－9－22(三本松不動北) ☎ 222－2001

club **さち**
中央区下山手通2－17－13 ☎ 331－7120

クラブ **千**
中央区下山手通2－12－6 ☎ 391－1077

club **なぎさ**
中央区北長狭通2－11－2 ☎ 331－8626

クラブ **るふらん**
中央区中山手通1－3－1 ☎ 331－2854

club B A R **Moon Light**
三宮・生田筋Club ☎ 331－0157 / Bar ☎ 331－9554

club **コトブキ**
中央区三宮本通り ☎ 331－1875

★STAND & SNACK

スナック **CÉLINE**
中央区北長狭通2-5-1 タイシンサンセットビル5F
☎ 332－6020

レストランBAR **薔薇屋**
中央区北長狭通5－5－22 ☎ 351－4311

サロン **アルバトロス**
中央区中山手通1－22－10 ☎ 231－3300
大和ナイトプラザ2F

プチシャンソン
"音楽の家" **エトワ**
中央区三宮町3－8－12 ☎ 332－1755
神戸トアロード三宮センター街西入口 スカイトーアビル3F

スナック **雅子**
神戸市中央区北長狭通1-5-9 KCBビル3F ☎332－0051

Theater pub **トム・キャンティ**
中央区下山手通2－8－2 ☎ 331－2122
神戸ワシントンビル1F

スタンド **グラムール**
生田筋岸ビル地階 ☎ 331－4637

サロン **神戸時代**
中央区中山手通1－23－10 ☎ 242－3567
モンシャトウコトブキビル

カクテルラウンジ **サヴォイ**
高架山側 ナキの店北 ☎ 331－2615

ミュージック
ラウンジ **サントノーレ**
トアロード店 中央区下山手通2－5－6 ☎391-3822
北野店 中央区中山手通1-22-10 大和ナイトプラザ6F ☎221-3886

スタンド **千里**
中央区下山手通2－11－1 ☎ 331－4730
K. S. Mビル1F

素舌洞 **でっさん**
中央区北長狭通1－5－12 ☎ 331－6778

STAND **マシュケナダ**
中央区中山手通1－4－6 ☎ 331－5587
ユーベルビル4F

Adult Disco **セキーナ**
中央区加納町4丁目7－11 パレ北野坂ビル8F ☎ 332－0666

末広光夫の
ミュージックサロン **ティファニー**
中央区中山手通1－21－13 ☎241－1771

Wine and
Something **珍地理屋**
中央区中山手通1－22－10 ☎ 242－0288
大和ナイトプラザ1F

レジャービル **西村ビル**
中央区北長狭通2－12－10(生田筋) スーパーステーション
ランダムハウス45rpm 虎連坊 菱珍 エスカイヤクラブ

スタンド **かてな**
中央区中山手通1－7－10 英健ビル1F ☎ 331－1316

LOUNGE **パルテノン**
中央区加納町4－8－13 高橋ビル3F ☎ 391－4123

スナック **アダルト**
中央区北長狭通1－20－2 笹原ビル5F ☎ 321－5885

CAFE RESTAURANT & BAR
MARLENE
中央区北長狭通1－2－13 ニューリッチビル5F
☎ 331－9050

らうんじ **沢村**
中央区中山手通1－4－10 平和楼ビル3F
☎ 332－2695

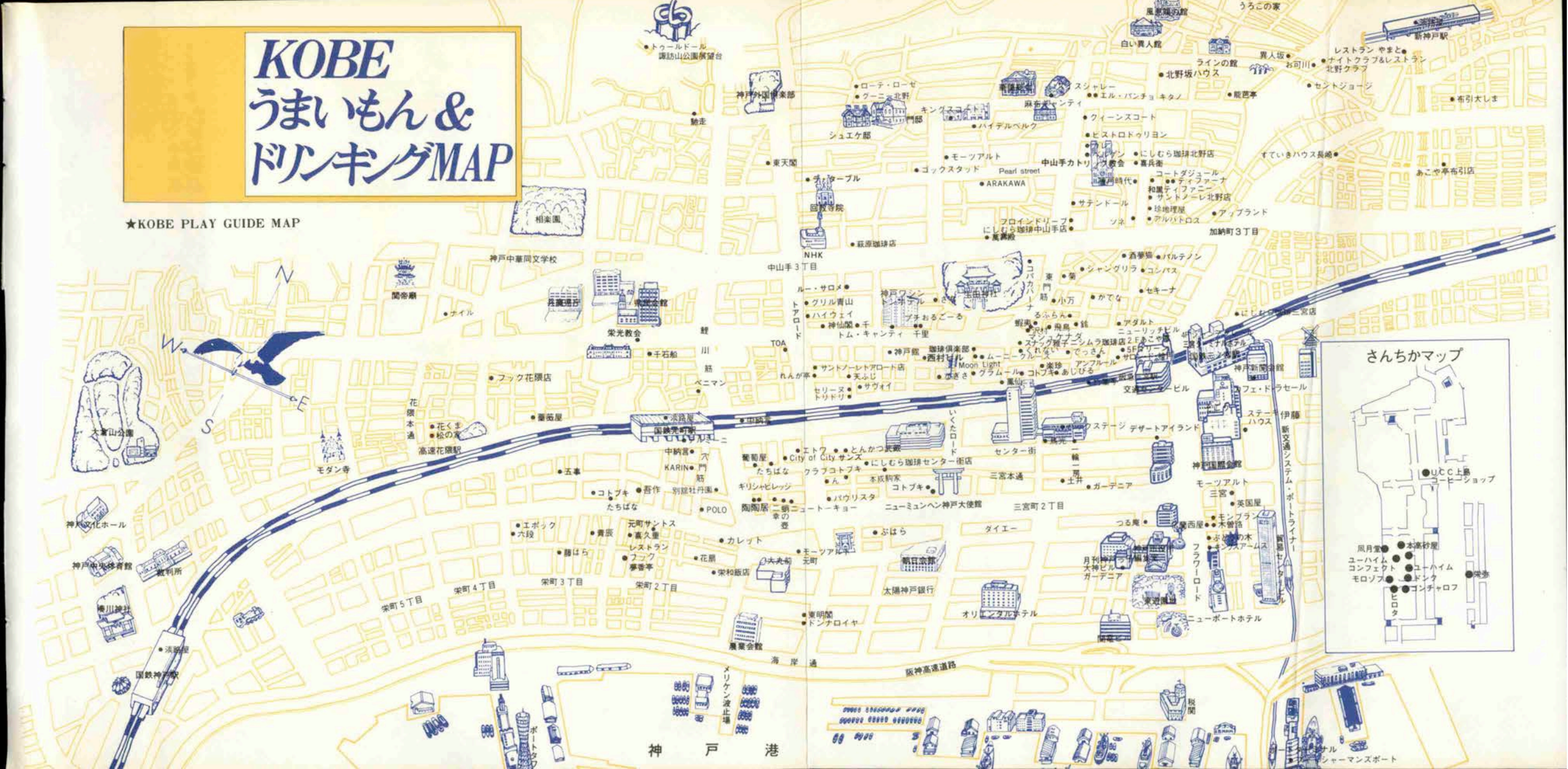
ラウンジ **アンフルール**
神戸市中央区北長狭通1丁目5－1 大山ビル4F
☎ 331－2071

PRAIVATE
SALOON **コートダジュール**
中央区中山手通1－22－113 ヒルサイドテラス4F
☎ 222－7222

会員制酒場サロン **サロン・ド・神戸**
中央区北長狭通1－2－13 ニューリッチビル10F
☎ 331－1547

KOBE うまいもん＆ドリンキングMAP

★KOBE PLAY GUIDE MAP



三宮に咲いた。

「神戸 花ホテル」

三宮駅(国鉄・阪急・阪神)から
山側へ歩いて1分。

ステーキ 花(B1)

ゲスト/パリ国立銀行大阪支店総支配人
ロジャー・ドゥルース、バリア御夫妻

昨年10月大阪支店に着任されたドゥルース総支配人。東京での勤務を合わせると、日本滞在も4年目に。今までに一番印象に残っているのは、サービスが行き届いていること。日本食が好きな奥様と青谷にお住まいで、この〝ステーキ花〟をスタートに神戸の生活を楽しみたいとのことでした。

喫茶 アルカディア(1F)

フラワーロードに面した大きな窓から降りそそぐ光、シンプルな内装。ホワイトソースを使ったビーフカツレツ(サラダ付 ¥1200) やドリームセット(ツナトースト、サラダ、ミニパフェ・ドリンク ¥800)などのおしゃれなメニューが魅力的。(7:00〜24:00)

ラウンジ フルール(2F)

ホテルのバーは都会のエアーポケット。宵闇に浮かぶ車の流れを見つめながらグラスを傾ける。あるいは毎月のお薦めカクテル、バースディカクテル(¥700)の変化を楽しむのもまた一興。
(10:00〜24:00、カクテルは18:00から)

HANA HOTEL
KOBE SANNOMIYA
〒651 神戸市中央区布引町4丁目2番7号
Phone:078-221-1087

SHOPPING

まばゆい光のなかを…

今、新たなたびだち

●ローズショップ

サムホール

北野・異人館通り ローズガーデン1F
☎222−1200

晴れの日に、バラのブーケを。色とりどりのバラを取り揃えております。

●レディス・ファッション

カーサ・サンサカエ

中央区元町通2−1−9 ☎331−5121

ヤングアダルトからキャリアゾーンまで、神戸色したお洒落な服。

●結納・儀式用品・高級金封

平山商会

中央区中町通2−1−16 国鉄神戸駅前
☎351−1551

一人の幸せな縁を結ぶご結納品をどうぞ。

●花と園芸

草楽園

中央区山本通3−14−14 ☎221−1585

オーダーメイドのブライダルフラワー。花嫁のすべてをコーディネートするコンサルタントが御相談を承ります。

SHOPPING

嫁ぐ日に
神戸からの贈りもの

●手づくりの心をつたえる

Cascade

サンチカ店 ☎391−3357

お店の中にオーブンがあり、いつでも焼きたてのフレッシュパンが味わえます。パイケーキがおすすめ……。

●べっ甲

太田べっ甲店

元町1番街山側 ☎331−6195

季節に先がけて、こんなブローチを胸に秋の街へ

●アクセサリー

杏〈アンズ〉

センタープラザ1F ☎332−3907

初秋のシックな装いのアクセントとして、ロエベのセカンドバッグはいかがですか。

●画材・額縁

末積製額

トアロード・大丸前 ☎331−1309

秋風とともに、あなたのお部屋、模様替えしてみませんか。

三代続いた
はなよめ創り

元町 弥生美容院
神戸市中央区元町通５丁目４番１５号
電話 神戸 078（３４１）１２５６代

ビューティサロン弥生
神戸市中央区中山手通１丁目１－２
電話 神戸（078）392－１３００

代表者中馬 美恵子

■KOBEキタノ公開異人館オープン

「展望塔の家」はまるで小さなお城！

亀甲スレート貼りの塔屋（上左）ビクトリア調のバーカウンター（上右）40帖ある食堂（下左）スタディルームには500棚書籍も（下中）サンルーム付客間のベッドは18世紀末のもの。

北野町の不動坂を登って、左に緑のサスーン邸の異人館や、シアターポシェットを過ぎ、うろこの塔のあるオクトーバー14、そして若い人に人気のある明治館まで登りつめた坂の上に、ブルーグレイの色調がやさしい異人館「展望塔の家」が、白い神戸の街と青い港の見える素晴しい風景の中に、8月12日オープン。

十九世紀の英国製の黒い鉄のアーチをくぐり、うろこの塔と一味違う亀甲スレート貼りの塔の玄関から入ると、十八室もあるゆったりとした部屋構え。十九世紀からのフランスブルボン家のダイニングセットのある40畳の食堂、ビクトリア調のバーカウンターや、今年の四月までスイスの外交官一家が使っていたキッチン二室、シャーロックホームズを思いだす書棚のあるスタデールームや、バスルーム、パントリー。白い階段を二階にあがって、サンルーム付の客間からは紀伊半島から淡路迄がサアーと広がる。寝室には十八世紀のポストベッドや、神秘的な東洋コレクションのパーラーがあり、アンティーク家具のリッチさは、美景とともに豊潤なエトランゼのくらしが伺える。

この館は、明治中期の旧居留地時代に建てられた商館で、大正初期にここへ移築され、英国、ドイツ、仏、米、露、カナダ、スイスなど世界各国の人々が、神戸ライフを満喫していたものを、ていねいに復元改築し、プールサイドもある本格的な北野ライフが見学できるのだ。

★公開は午前九時～午後五時。年中無休。夜景も楽しめるよう夜の公開も計画中。
入場料／大人500円 子供100円 団体400円（20人以上）

★神戸市中央区北野二丁目☎078（242）0156

縁むすびは 花むすび

お客様と店をむすび、心と心を結ぶおむすびになれば、という願いを込めて〝花むすび〟と名付けました。和菓子の感覚で、ちょっとお洒落なおむすびをお楽しみ下さい。

おむすび
四季の花むすび

プランタン三宮B2F ☎〇七八(三五三)〇一六八

宴に添えて

活伊勢海老料理

中納言

CHUNAGON

神戸プラザホテル店☎(078)331-7918	国鉄元町駅東口徒歩3分 神戸プラザホテル2F
神戸元町東店☎(078)392-1685	国鉄元町駅東口を三宮方面へ歩いて30m 東隣7F
大阪心斎橋店☎(06)244-9866～7	南区南船場4-5-3 東心斎橋ビル12F
大阪駅前第3ビル店☎(06)341-5460	北区梅田1-1-3-2200 駅前第3ビル5F
大阪駅前第4ビル店☎(03)344-8685	北区梅田1-1-4 駅前第4ビル8F
東京銀座店☎(03)571-7121	東京都中央区銀座5-9-16 「銀座コア」前向い・あずま通り
東京赤坂店☎(03)582-8588	東京都港区赤坂4丁目2-6 ～ツ木通り

国際色豊かな会員制レストラン。世界各国の民族衣裳を使っての結婚式を受けつけています。

CASABLANCA CLUB
カサブランカクラブ

中央区北野町3-1-6　☎241-0200
バビロン(オフィス)　☎222-0182

コートダジュール オリジナルバーベキュー
新鮮な魚貝類・肉を炭火で焼きながら、ダイナミックに野趣料理を…。
サービスコース(8名以上)¥5000　スペシャルコース¥12,000(飲・税・サ別)
30名様収容可・前日予約可

PRIVATE SALOON
Cote d'Azur
コートダジュール

中央区中山手通1-22-113ヒルサイドテラス4F　☎222ー7222
11:00AM～5:00PM（ランチタイム2:00PMまで)5:00PM～会員制

しゃぶしゃぶのコーナーでは、神戸ビーフの逸品を。また新鮮な魚介類の鍋もおすすめのメニューです。

出張パーティも承ります

RESTAULANT
やまと

新神戸駅前そごうマークのビル2F
AM11:00～PM9:00　☎242-2020㈹

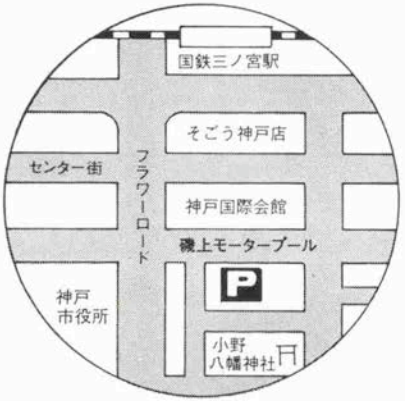
カップを手にするときは、いつも最高でいたい。マイベストタイムをカレットで…。姉妹店〝カフェ・ド・ラセール〟(新聞会館1F)もご愛顧ください。

サロン ド ティ
Carette

神戸市中央区元町通1丁目元町一番街
☎ (078)321ー1739

TASTE OF KOBE

ビジネスに!
ショッピングに!
ご利用ください



磯上モータープール

●収容台数 350台
●月極駐車可
●年中無休

(神戸国際会館前) TEL (078) 251-2662 (8：00A.M.～11：00P.M.)